

ついに完成！お茶高制服スラックス

指導部 土方伸子

1. はじめに

来年（2022年）創立140周年を迎える本校の制服の歴史は長く、学校説明会の中でも着物、袴からセーラー服、ブレザー・スカートへと移り変わった制服の変遷について紹介されている（図1参照）。昭和25年11月の創刊以来、「おちゃのみづ高校新聞」（現在は「お茶の水」に改称。以下「お茶の水」）には、幾度となく制服に関する記事が登場する。制服は、単なる機能性やデザイン性、経済性だけでは語りきれない意味や価値を包含している。

昭和43年12月23日発行「お茶の水」第129号には、「制服改定をめぐって ベルトをすてて新風を」と題した特集が生まれ、生徒、教官（独立行政法人化以降、教員）双方に制服改定審議委員会が立ち上がり、生徒と教官の溝、学年間の溝などを浮き彫りにしながら大きな制服改定運動に発展していったことが記されている。昭和44年5月23日発行「お茶の水」第130号「最終段階にいたった制服改定」には、「新学期。制服の決まらないまま一年生は入ってきた。その声は予想外に制服改定に批判的であり、昨年から推し進められてきたこの運動は新たな問題を抱えてしまった。」とある。いかに制服問題が長期化し、混乱した出来事であったかを物語っている。この問題は、セーラー服（昭和5年～）に校章バックル付きベルト（明治39年～）というスタイルが、奇異である、非機能的である、誤ったエリート意識の象徴であるといった生徒たちの不満の声に端を発しているが、実は学生紛争という時代の波に後押しされ、これまでの古い学校の体質を打ち破り、生徒たちの力で新しい何かを生み出そうとする起点となる出来事であったと解釈している。

和服から洋服に切り替わった時、戦時中で物資が不足し校章バックルをお国のためにと献納した時、戦後の経済的な余裕が生まれてきた時など、その時代の社会情勢を反映するように本校の制服も移り変わってきた。

2020年12月、本校の制服に新たにスラックスが導入された。従来のスカートと導入されたスラックスを生徒が自由に選択できるようになっている。これは本校の制服の歴史に残る出来事である。ここにその経緯について報告しておきたい。



図1 学校説明会で紹介されている本校制服の変遷

2. スラックス導入の経緯

2-1. きっかけ

スカート着用に違和感を持つ生徒、肌を露出したがらない生徒（宗教上の理由で肌を出せない留学生も含む）、防寒理由でスラックス着用を希望する生徒は、かなり前から毎年のように存在していた。教員間でもスラックスの導入についてはたびたび話題になっていた。しかし、希望者が少なく、生徒たちの要望の声も大きくなならないことから、この話はいつも現実味を帯びないまま過ぎてきた。

平成13（2001）年3月17日発行「お茶の水」第246号の特集「お茶高生の制服観」には、スラックス（ズボン）着用の賛否を問う質問に対し、反対が賛成を倍以上上回ったと記されている。また、平成19（2007）年12月20日発行「お茶の水」第263号の特集「制服を考える 身近なファッション」には、そもそもスラックス着用の賛否や導入について問う項目がない。つまり長い間、多くの生徒たちは、女子の制服にはスカートという固定観念を疑うことなく享受してきたと言えるだろう。そのような中でスラックスを希望する生徒たちは、期間限定の異装願を提出し、教員会議の承認を得た上で各自が用意したスラックスを着用するしかなかった。

近年、世間的にLGBTが大きく取り上げられるようになり、女子生徒の制服にスラックスを導入する学校も出始めた。本校においてもジェンダーフリー教育の浸透で生徒たちの意識が変わり始めたこと、また、異装で着用されるカジュアルズボンのデザイン・素材が制服として適当と言えないものが目につき始めたことなどから、学校として本格的にスラックス導入を検討する時期を迎えていた。そのような折、当時の副校長が、「制服は基本的には学校が決めるものであり、希望者が少数に留まることが予想されても、学校がスラックスを選択肢として用意していることが重要である」との考えのもと、2017年11月の企画委員会（管理職と各部部長で構成される組織）にスラックスの導入を提案。そのことがきっかけとなり、指導部長を中心に教員主導でスラックスの導入を具体的に進めることとなった。

2-2. なかなか完成しない試作品

2018年3月、本校の制服を手掛けている業者（（株）マツマル、（株）メーフェア）に副校長から試作品の提案を依頼した。当初は6月または9月の学校説明会でスラックス導入について紹介、冬から在校生の防寒対策用として試行的に販売、2019年4月から本格導入と考えていた。しかし、生地選びが難航し、トンボ学生服も巻き込みながらの検討となり、最初の試作品が届いたのは2018年10月末。そこから数名の生徒と教員で試着し、素材やデザインについての意見を集約した結果（図2参照）、もう一度改良品を提案してもらうことになった。改良品は2019年1月に届き、概ね満足できるものではあったが、女子高生の体型の変化や大きな動きに対応できるよう、可動式ホックの他にウエストの左右にスカートのサイズ調整のようなものをつけるなど一部改良を要するという話になった。2月下旬に届いた次の改良品が教員会議で了承された。しかし、2019年4月入学生への販売は、生産が間に合わないという理由で本格導入が見送られた。

スラックス制服 試着モニター結果			
身長	A (タック2本)	B (タック1本)	総合所感
163 cm	しゃがみづらい	Aと比べ全体的にゆとりあり	伸縮性がない
	ももあたりがきつい	ももにも若干余裕を感じる	ジャケットとのバランスはBの方が良い
	ザラザラ (肌触り) 不快	裏地はAほど気にならない (ピッタリしていないから?)	ウエスト調節機能がほしい
		Bの方が動きやすい	
158 cm	お尻がきつい	かがみにくいが、しゃがむことはできる	伸縮性がほしい
	体育座り不可	体育座りもやや苦しいができる	ポケットは真横より前目にしてほしい
	チクチク (肌触り) 不快	ウエストが苦しい	
		お尻は出にくい	
159.5 cm	もも引っ張られる	もも余裕あり	裾が広く感じる
	しゃがむのがつらい	しゃがむのも体育座りも楽	ももが太いと上着と合わない
	体育座りはできる	前のプリーツがすぐに取りれてしまいそう	寒い (裏地がないから)
			ポケット使いづらい (多分使わない)
154.3 cm	しゃがめない、お腹がきつい	Aと比べてももが楽	ウエストはゴムがほしい
	体育座りをすると破けそう		ストレッチ性にしてびったり履く方がよい (ユニクロのストレッチパンツ)
			ポケットに物が入れられない (バツバツのため)
			全体的にデザインがメンズライク
先生方 所感	<ul style="list-style-type: none"> ・裏地なし→裏地は必須 ・サイズ調節ができるよう、ウエストにゴムやアジャスタがほしい ・ウエストのホックを1口→2口に ・ジッパー部分の生地を重ねが浅い→もう少し深めに ・裾がやや広い→少し絞る ・ダーツ部分→タックに (タックがあると腰回りが窮屈になる?) ・真横にあるポケット→ななめスリットを入れて前方へ ・体育座りができるような伸縮性の素材 (冬服:毛70%、ポリエステル30%、夏服50%、50%→ポリウレタンを5%以上加える) ・色は上着と同色が原則。ポリウレタンを加えることで色味が変わらないか? 変わっても気づかないくらいの程度に。 ・経年によるお尻部分のテカリ (光沢) が発生しないか? ・洗えるとうい 		
	11/5 (月) 13時半~14時	【今後の予定】	【備考】
	マツマル、トンボの担当者と打合せ	12月13日までに試作品修正版到着	・受注生産
		12月中旬 生徒試着	・冬服、夏服の両方用意
			・価格はスカートと同等 約14,000円 (トンボの原価は7,000~8,000円)

図2 最初の試作品のモニターの結果

こうして時間をかけているうちに担当していた指導部長も交代し、また、6月～10月に引っ越しを伴う大規模な校舎改修が行われたため、スラックスの件は一時中断となった。次に話が再開したのは2020年1月、本校の制服を取り扱う四社が集まった新入生用制服の打ち合わせの席であった。最終的なデザインの確認や素材、価格の話を詰めている際、もともと男子の学生ズボンを型紙に作られたスラックスであるため、

何度改良しても女子の身体にフィットするものにはならないかもしれない。いっそのこと婦人用スラックスをベースに作り直してみてもどうかという提案が業者からなされた。ここまで時間をかけて改良を重ねたのに、という思いはあったが、もともと婦人服を専門にしている業者の提案でもあったので、そこは一任することにし、2020年6月の学校説明会に間に合うよう再提案してもらうことにした。

しかし、今度は新型コロナウイルス感染症の問題が発生。学校は3月から5月まで在宅学習期間となり、6月学校再開後も分級や時差登校、部外者の来校は認めないなど異例の対応に追われ、とてもスラックスどころではなくなってしまった。

10月に入りようやく打ち合わせを再開。新しい試作品は、2社（株）マツマル、（株）榎屋服装店）からそれぞれ数本ずつ提案があり、モニター生徒や教員らの声を集めた結果、婦人服を専門に取り扱っている（株）マツマルのデザインに決まり、その型紙で他の業者も取り扱うことになった。

その後は、価格や生徒保護者への案内、採寸・注文などについて話がスムーズに進み、2020年12月、ようやく念願のスラックスが本校に導入されたのである。

ちなみに、高校が試作品の検討に時間をかけていた2018年に本大学はトランスジェンダー学生の受け入れの検討を進め、2019年の5月に公表している。

2-3. ついに完成したお茶高スラックス

最終的に完成したスラックスのデザインは、タックが前面に1本、ベルトなし。両サイドには入り口を斜めにカットしたポケット（内側に名前刺しゅう入り）。腰回りにゆとりをもたせ、スラックスの裾は少し絞った形となった（図3）。

スカートに比べ作業工程が多くなること、購入する生徒がスカートほど多くはならないことから、当初は20,000円程度と割高になると言われていた。しかし、伸縮性の高いバネ式ウエストホックと背面に長目のゴムを入れることでウエストのベルトループをなくし、また、後ろポケットもなくしたことで多少価格を抑えることができた。結局16,500円（税込）に落ち着いた。ちなみにスカートは14,960円（税込）である。

サイズはSS～LLまでの5展開とした。



図3 完成したスラックス

3. 生徒の反応

3-1. 事前調査の結果

2020年4月春休み、自治会執行部がスラックス購入に関する事前アンケートを実施した（回答：324/362，89.5%）。その結果、値段が高くて（20,000円位）購入したい12名（4.0%）。スカートと同じくらいの値段（14,000円位）であれば購入した

い 82 名 (26.0%)。購入しない 226 名 (70.0%) であった。購入希望者 94 名 (30.0%) の内、77 名 (81%) の生徒はデザインを見てから購入すると回答し、18 名 (19%) の生徒は学校指定のデザインであれば購入すると回答していた (図 4.5)。また、夏用スラックスを購入したい 36 名 (11.0%)。冬用スラックスを購入したい 90 名 (28.0%) であった。

実際に冬用スラックスを購入した生徒は 29 名 (8.0%) であった。その内、1 名は卒業まで 3 か月を残した 3 年生であった。グラフ中の数値は、人数とパーセンテージである。

スラックスが導入される場合

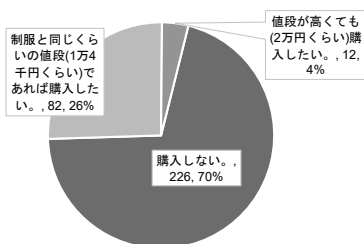


図 4

購入したいを選択した人のみ回答

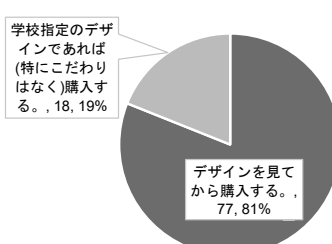


図 5

夏用スラックスの購入希望

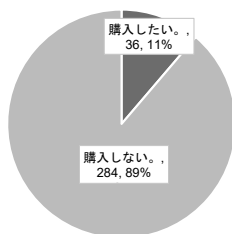


図 6

冬用スラックスの購入希望

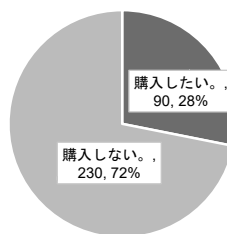


図 7

3-2. 事後調査の結果

スラックスの導入から 4 か月が経った 2021 年 4 月、指導部長が導入されたスラックスに関するアンケートを実施した (回答 : 266/360 名, 73.9%) ところ、購入した生徒は 28 名 (11.0%)、購入していない 238 名 (89.0%)。スラックスのデザインについて、良い 146 名 (55.0%)、どちらでもない 107 名 (40.0%)、悪い 13 名 (5.0%)。価格について、高い 145 名 (55.0%)、適当な価格 121 名 (45.0%)、安い 0 名 (0%)。今後の購入予定について、夏冬両方購入したい 9 名 (3.0%)、夏用のみ購入したい 9 名 (3.0%)、冬用のみ購入したい 23 名 (9.0%)、購入予定はない 225 名 (85.0%) であった (図 8 ~ 11)。

スラックスの購入について

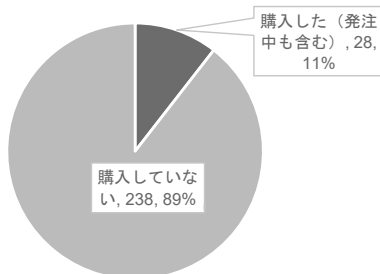


図 8

スラックスのデザイン

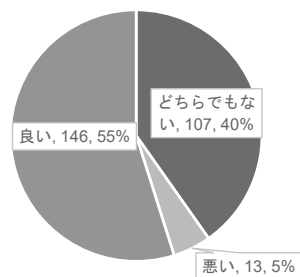


図 9

スカート14,960円に対するスラックス16,500円の価格

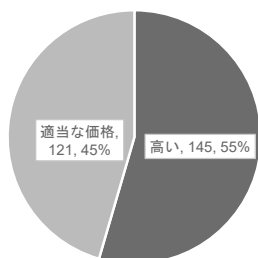


図 10

今後の購入について

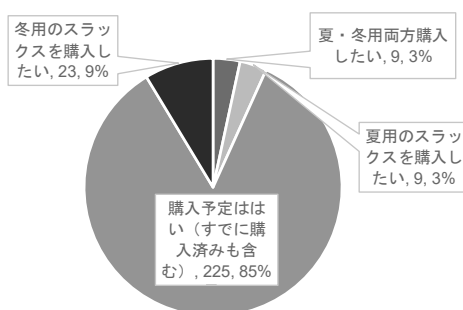


図 11

スラックス着用者のスラックスに対する満足度は、満足 13 名（45.0%）、おおむね満足 14 名（48.0%）、やや不満 2 名（7.0%）、不満 0 名（0%）であった（図 12）。

スラックスの満足度 (着用している生徒のみ回答)

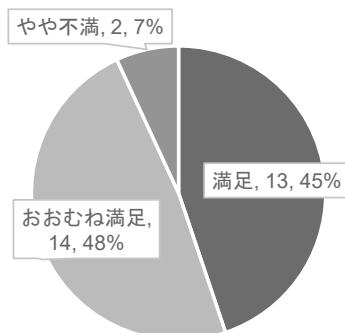


図 12

満足度に対する理由は、以下の通りであった（生徒の回答そのまま）（図 13）。

満足	足が暖かいし動きやすく、エスカレーターも気にせず使える。ただ、ベルトや肩にかけるやつつけられるようにしてほしい
	中学のときはずっとスカートで、冬だけでもスラックスがいいと思っていたので、自由にスカートとスラックスを選択できる制度が素晴らしいと思いました。
	動きやすい、スカートだと足が痒くなることがあるが、スラックスだと大丈夫だから。
	動きやすい
	自分の着たいものを着れる、クラスメイトから不審な目を向けられたりしない雰囲気
	着心地が良い
	ゆったりとしたデザインで動きやすいから
おおむね満足	肌触りが若干悪いから
	ズボンのチェックが、右利きだと開けにくい
	ベルトをつけたい。それ以外は気に入っているため
	ウエストが緩いので、ベルトを通せるようにしてほしい
	形が綺麗だから
	Tで買ったものだけなのかもしれないが、静電気がかなり発生して、号令をかける時に気になってしまう
	保温性は高いが、やや蒸し暑い時に気苦しい。
	長さ、布の面積が丁度いい
	ベルト通しがないと下がってきってしまう。もう少しストレッチが聞いていて欲しい。座った時にポケットからスマホが落ちないか不安。
身勝手ですが、もう少し綺麗なラインだと嬉しいと思いました。	
やや不満	ウエストがゆるいので、ベルトの穴をつけて欲しい。裏地の前側はナイロン生地なのに、後側が表地と同じ生地なので、肌が弱いと刺激が強クチクチクします。
	身体のラインが目立たないようなもう少し太い形のズボンが良かった。

図 13 スラックス着用者の満足度に対する理由

また、スラックス導入について、全回答者に意見や感想など自由記述を求めたところ、以下のような回答（生徒の回答そのまま）があった。（図 14）。

3年生は使用期間が短いにも関わらず、スラックスが売ってるんだからウインブレ等の使用を禁止するのはおかしいと思う。それは入学時から選択権を持つ生徒に適用されるべきだ。そんな短い間のために高額の金額を払う金はそもそもうちにはない。
あんまり可愛くない違うデザインとか自分で好きなのをきれるなら良かった
いいと思う
ウエストが高いと可愛い
かっこいいですよースラックス??
かっこよくていいと思います
ジェンダー社会に対応した制度なのでいいと思う
スカートとスラックス両方選べるのはとても良いことだと思います。
スタイリッシュでいいと思う
スラックス販売は継続して欲しいです
とてもいい試みだと思います！3年で今後制服を着る機会が少ないため購入はしませんでした。新入生なら購入していたと思います！
とても良いと思います。
ブーツカットみたいになってたら、かいたくなる
ベルトをつけたい。落ちてくる。夏用も欲しいが3年生はお金を出してひと夏のために買えない。
ベルト通しをつけて欲しい
ベルト欲しい
ポケットにスマホがスッポリと入るようにもう少しだけ深くして欲しい、ベルト通しが欲しい
もう少し安ければ購入したのですが…
個性が出せるので良いと思う。選択肢があるのも良いと思う。
購入を考えていたが、履く人を選ぶシルエットで、私は脚が短いので到底似合わず、買えなかった。
高い(T ^ T)
今後の購入について、「購入予定は無い」と解釈しましたが大丈夫でしょうか。
持ってないし買う予定もないですがベルト通しがなくて困っている人をよく見ます
自分に合わせて自由に選ぶことができていると思う
色のバリエーションが欲しい
販売先で、スラックスは買わないのが当たり前のような対応を受けました。それはどうかな、と思います。
履きたい人は履けばいいと思う

図 14 制服スラックスに関する意見・感想など、自由記述

4. まとめ

制服スラックス導入の提案から実に3年が経過し、随分時間がかかってしまった感がある。しかし、もともと教員の中にはスラックス導入は大きな変更なのだから、時間をかけて丁寧に検討する必要があるという考えもあった。制服販売を専門としているわけではない業者に、試作品や改良品を何度も何度も提供いただき、学校のペース

に辛抱強く付き合っていたいただいたことに心から感謝したい。また、導入後の生徒たちの満足度は思っていた以上に高く、ひとまず制服に適したスラックスを導入することができたのではないかと安堵している。

スカートとスラックスが自由に選択できるようになって初めての学年である2021年度の新入生からは、「夏用スラックスはいつ買えるんですか?」「スラックスを履いている人がどのくらいいるのかわからなかったから、とりあえずスカートにしたけれど、意外に履いている人がいるので自分も買いたい。」といった声が聞かれる。一方、異装願で自前のズボン着用が認められていた2・3年生からは、決して安くない学校指定のスラックスを今更購入し、着用することへの不満の声も少なからずある。

2021年5月現在、夏用スラックスは生地が決定し、サンプルが届くのを待っているところである。自宅で手軽に洗濯できる、肌触りの良い、伸縮性の効いた活動しやすいものを導入したいと考えている。ポケットやウエストの大きさ、裏地についても改良できるところは業者と検討していきたい。また、スカートしか選択肢がないまま入学してきた2・3年生の不満の声にも対応していきたい。

女性の活躍が期待される時代。多様性の時代。あと数年もすれば、スラックスは本校の制服として定着し、着用する生徒も増えているだろうか。はたまた、制服不要論が巻き起こったりするのだろうか。今後の時代の流れと制服に引き続き注目していきたい。